

目 標

- ・自然を愛護し、環境保全の努力をさせる。
- ・公害（水俣病など）を正しく理解し、公害を許さない・起こさない態度を育てる。
- ・故郷を誇りに思う心情を育てる。
- ・学校版環境ISO活動の推進を図る。
- ・エコ改修校舎を活かして自発的行動を育てる。



PLAN

平成25年度水俣第一中学校環境ISO宣言項目

<生徒版>

- コミュニケーション活動に積極的に参加し、参加率90%以上を達成します。
- 容器包装プラスチックを分別し、燃やすものをできるだけ出さないようにします。
- プリント紙の裏面も有効利用し、リサイクルできる紙類を分別します。
- 室内の明るさに応じて使用する照明の本数を判断して、節電します。
- コップ1杯での歯みがき、バケツ1杯での清掃、雨水タンクを利用して節水します。
- 家庭での資源の有効利用と分別、効率的な冷暖房の工夫、節電・節水に努めます。

平成25年度水俣第一中学校環境ISO宣言項目

<職員版>

- 裏紙の再利用で紙の消費を抑えます。印刷用紙の使用量は昨年度の数値から2%削減します。
- 室温により冷暖房を管理し、冷房は28℃、暖房は20℃に設定します。電気使用量は昨年度の数値を維持します。
- 紙類を分別し、資源としてリサイクルに努め、できる限り捨てません。
- 環境を意識した美化作業、清掃活動の指導に努めます。
- 家庭での資源の有効利用と分別、効率的な冷暖房の工夫、節電・節水に努めます。



学校版環境ISOは、生徒会環境ISO委員会を中心に計画と実行をしています。昨年度の反省点を活かしながら生徒総会で承認を行い本年度の活動がスタートしました。

宣言文を5項目から6項目へ見直し、曖昧な表現の部分を具体的に自己評価できるように改善しました。また、燃やすごみの減量を目指して紙類資源の分別の徹底を図ります。職員版についても、より省資源を目指しています。

DO

<日常的な活動>

コップ1杯の水で歯磨き



雨水タンクの水を利用してグリーンカーテン用のアサガオに水やり



節電



紙資源分別



環境ISO宣言項目を実践するために日常の生活で、節電、節水、資源分別を行っています。雨水タンクの水を利用して水やりしたり、一部は掃除でも利用したりしています。教室が明るくなるように校舎が改築されているので、不要な照明は生徒自身でこまめに消すようにしています。晴れている日であれば、まったく照明をつけずに授業を行っていることもあります。

<コミュニケーション活動>



水俣一中では地域ごみ分別収集活動に以前から参加しています。部活動や諸活動よりも優先させています。地域の方とのふれあいを深めるという目的もあって、ゴミとコミュニケーションをかけて『ゴミコミュニケーション』と呼んでいます。毎月決められた日時で自宅付近のゴミステーションにて活動しています。今年は、生徒がいる地区だけが82か所で毎月参加しています。今後も活動が充実するようにしていきたいです。

<生徒会活動>



夏季の室温を下げることに、初秋の日射を遮ることを目的にグリーンカーテンづくりをしています。どのようにしたらうまくいくか実験的に栽培しています。整備委員会を中心に、苗づくり、水やり、種取りを行っています。まだ発展途上ですが来年こそ良いものをつくりたいです。

<講師をお願いして環境学習をしています>



1年生対象にゴミコミュニケーションの意義や方法について、環境クリーンセンターの方に来ていただきました。また、校舎の改修に携わられた大学の先生にも来ていただきました。今行っている活動について意義を再認識することができました。

<校舎を活用した環境学習>



左は明るい教室内で照明が必要なのかを実験している場面です。帽子をかぶっていると、蛍光灯がついたり消えたりしてもわかりません。この場合、照明は必要ないと判断できるのです。右は校舎にあるグリーンカーテンの効果を調べる実験です。気化熱の効果を考察しました。



<地元の環境について知る学習>



毎年2年生対象に総合的な学習の時間で行っている地域の環境について知る「海・山・川学校」です。NPO法人の方々や地域住民、漁協のみなさんに協力をいただきながら、水俣を知る学習を行い、地元の自然を大事にする心を醸成しています。水俣一中の校区を主にフィールドとしています。海学校では漁協チームと湯の児ダイビングチームに分かれ、漁場の再生活動や海中の生物観察を行いました。山学校では森林の保水力を確かめる実験、植物の光合成を確かめる実験を行いました。川学校では、上・中・下流域の調査チームに分かれ、生活と川がどのように関連しているか、どのような工夫をしながら水を活用しているかなどについて学びました。

<教科等授業での環境学習>



社会科、道徳などの授業でも環境問題や地元水俣の環境について考える時間をつくっています。豊かな心を育み、社会に出たときに実践できる力をつけたいと考えています。あらためて自分の行動を振り返り、将来の水俣について考える良いきっかけとなっているようです。

CHECK



(ゴミクサ実施エリア) 5区 水俣第一中学校 コミュニケーションシート (旧) 先生

行政区 (5区) (大田) 地区)

年・組	氏名	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分
3-2		○	○	○			○	○				
3-1		○	○	○			○	○				
2-3		○	○	○			○	○				
1-3		○	○	○			○	○				
1-3		○	○	○			○	○				
—												
—												
—												
—												
—												
—												
活動の反省・気づきの記入 (班長)												
地区担当者 検印												
集計用 (ISO担当で記入)		5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5

「出欠・態度欄」の記入について
 ○…時間いっぱい集中して活動できた。
 △…遅刻、早退、もっと活動に集中すべきであった。
 ×…不参加であった (理由を記入すること)。
 免…報告・確認があったものに限る。

[手順]
 ① 班長がシートを受け取り、実施の確認をする。
 ② ゴミコミュニケーションの翌日に、地区担当の先生に提出する。
 ③ 地区担当の先生からチェックをもらった後、ISO担当の先生に提出する。

開始時刻 5:00
 終了時刻 5:30

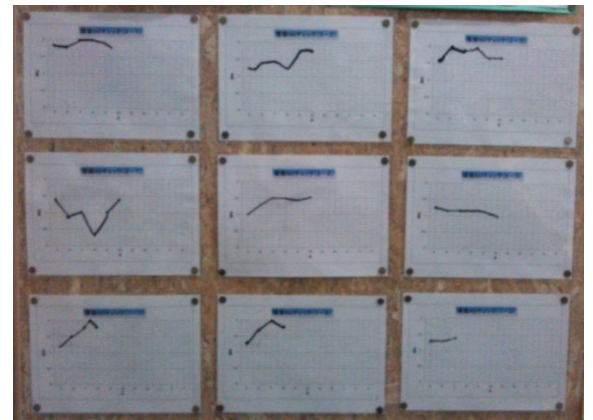
平成25年度 10月 学校版環境ISOチェックカード (3年1組)

行動項目	1週目 (7)	2週目 (7)	3週目 (11/7)	4週目 (11/27)	5週目 (7)	合計	平均
ゴミコミュニケーション活動に積極的に参加し、参加率90%以上を達成します。	2	2	2	2	2	10	2
容器包装プラスチックを分別し、燃やすものをできるだけ出さないようにします。	2	2	2	2	2	10	2
プリント紙の裏面も有効利用し、リサイクルできる紙類を分別します。	2	2	2	2	1	9	1.8
室内の明るさに応じて使用する照明の本数を判断して、節電します。	2	2	2	2	2	10	2
コップ1杯での飲みがき、バケツ1杯での清掃、雨水タンクを利用して節電します。	2	2	2	2	2	10	2
家庭での資源の有効利用と分別、効率的な冷暖房の工夫、節電・節水に努めます。	2	1	1	1	0	5	1.0
合計	12/12	11/12	11/12	12/12	9/12		1.78
平均	2	1.8	1.8	1.8	1.5		1.78

○ 毎週金曜日の帰りの会でチェックを行う
 点数の付け方
 できていた人が クラスの80%以上 ……2
 できていた人が クラスの50~79% ……1
 できていた人が クラスの50%未満 ……0

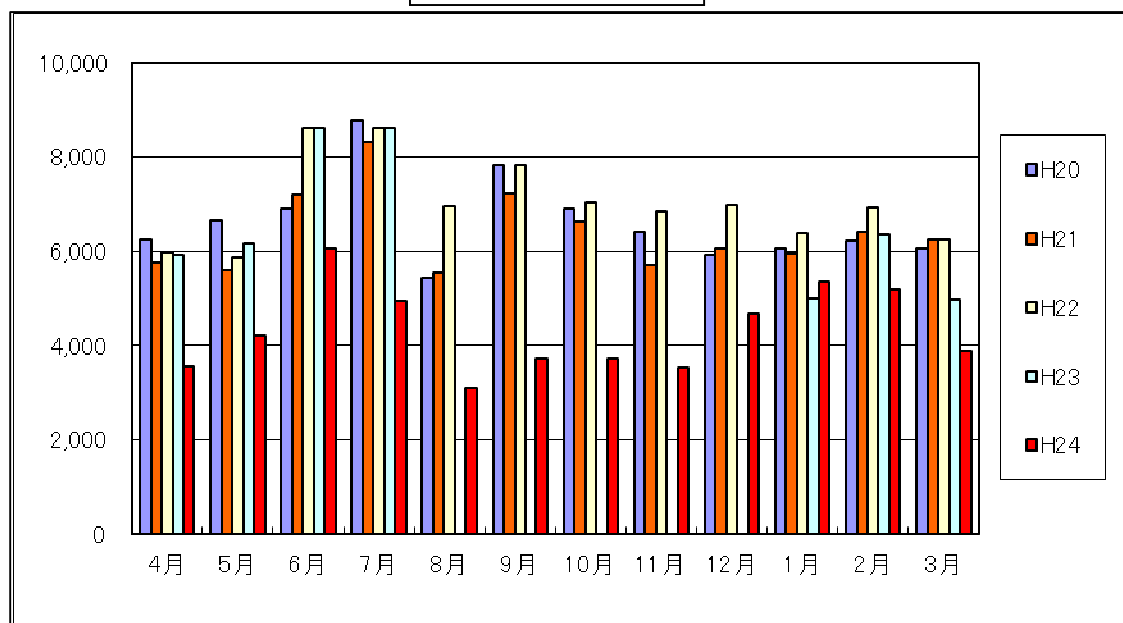
※月末は生徒会で提出し、掲示版に記録すること。
 ※月末は生徒会で提出し、掲示版に記録すること。
 ※月末は生徒会で提出し、掲示版に記録すること。

集計



環境 ISO 宣言項目に関することについては、クラスごとに生徒会環境 ISO 委員会を中心に毎週チェックをしています。集計することだけに終わらず、環境 ISO コーナーを作りいつでも目に触れるようにし、意識の向上をねらっています。また、給食時の放送を使って、連絡や結果の報道などを生徒自ら行えるようにシステム化をしています。活動が停滞した時や改善点が出てきたときは学級でその反省が活かせるように、環境教育担当がアドバイスをしています。また、職員の体制としても、各担任や各地区担当の教師も一緒に活動しながら、事前と事後指導も行えるようなシステムづくりをしています。

電力消費量の推移



これは電力消費量の年次推移です。H21 年度までは旧校舎、H22 年度は校舎仮移転もあり、データが不ぞろいですが、改築前のデータからすると明らかに節電が達成できています。校舎改築によって、高効率照明の導入や室内の採光の改善が図られています。環境 ISO 宣言項目にも掲げていますが、むやみに電気使用量を減らすということではなく、必要でないものをあえて使わないという精神を育てたいと考えています。H23 年度とのデータと比較しても H24 年度のデータは良い結果となっています。校舎改築による部分だけではなく、日常の積み重ねで電力使用量を抑えることができています。

いずれ、この値は改善するのが難しくなると思われますが、その値をどのように工夫して減らしていくか、または維持していくかが今後の課題でもあり、目標でもあります。

今年度の改善点として、紙資源を徹底してリサイクルに回すことを実践しています。各教室に紙袋や段ボール箱を用意して、定型紙のみだけでなく、小さな切れ端なども燃やすごみの中に入れないようにしました。明らかに教室や職員室から出る燃やすごみの量が減っていると実感できます。しかし、一部でまだ浸透していない部分もありますので、入学当初から一中の取り組みを卒業するまで実践させて、家庭や地域、卒業した後社会で活かせる実践力をつけさせていきたいと考えています。

水俣の環境について学ぶ体験活動や学習、教科や道徳の授業で地元のことについてしっかりと考え、故郷に誇りを持って生活できるようになってもらいたいと考えています。